

WRAYMER

倒立型金属顕微鏡 BMJ-3400TL

取扱説明書



このたびは、弊社製品をご採用いただきありがとうございました。

本製品の性能を十分に発揮させるためおよび安全確保のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
製品使用時には、常にお手元に置いていただき、お読みになったあとも大切に保管してください。

2. 各部の名称

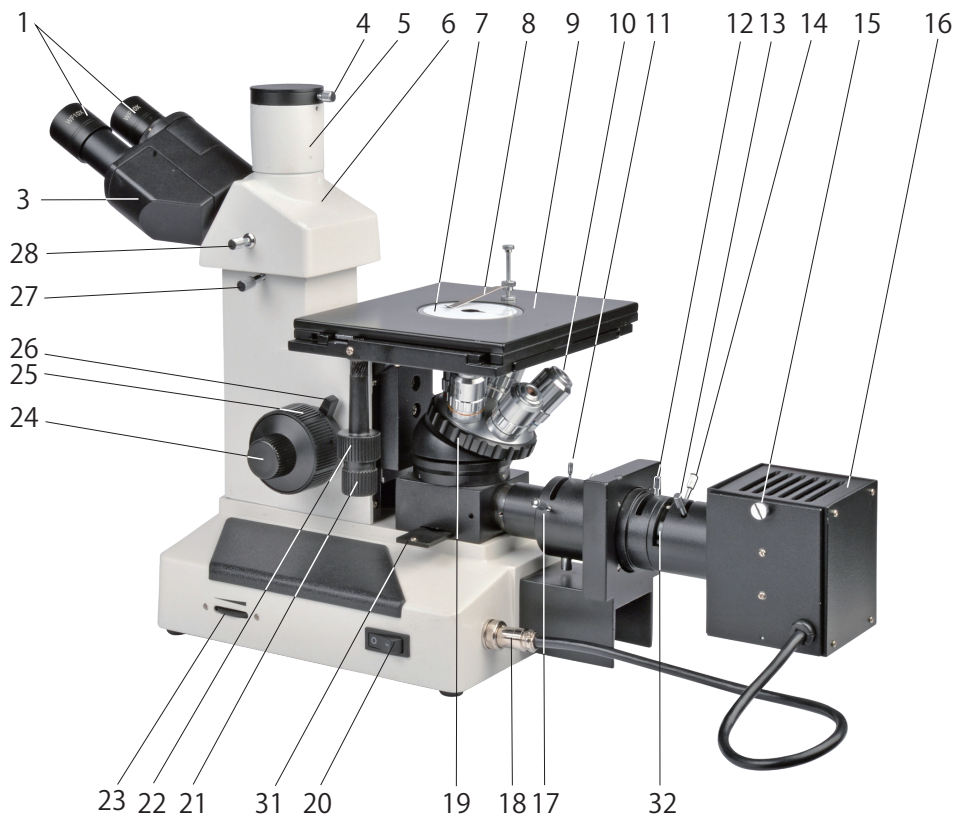


図 1

- | | | | |
|----------------|------------------|-----------------|----------------|
| 1. 接眼レンズ | 11. 視野絞り調整つまみ | 21. ステージ左右動ハンドル | 31. アナライザ |
| 2. 視度補正環 | 12. コンデンサ絞り調整つまみ | 22. ステージ前後動ハンドル | 32. フィルタ挿入口 |
| 3. 双眼部 | 13. コンデンサ調整つまみ | 23. 光量調整ダイヤル | 33. ランプハウス固定ネジ |
| 4. 撮影用アダプタ固定ネジ | 14. フィルタ又はポラライザ | 24. 微動焦点ハンドル | 34. トルク調整リング |
| 5. 撮影用直筒 | 15. ランプハウスふたねじ | 25. 粗動焦点ハンドル | |
| 6. 三眼鏡筒 | 16. ランプハウス | 26. ステージ位置ストップ | |
| 7. 円形ステージ | 17. 視野絞り芯出しネジ | 27. 鏡筒固定ネジ | |
| 8. クレンメル | 18. ランプハウス用プラグ | 28. 光路切換つまみ | |
| 9. メカニカルステージ | 19. レボルバ | 29. 電源コード差込口 | |
| 10. 対物レンズ | 20. 電源スイッチ | 30. 電源コード | |

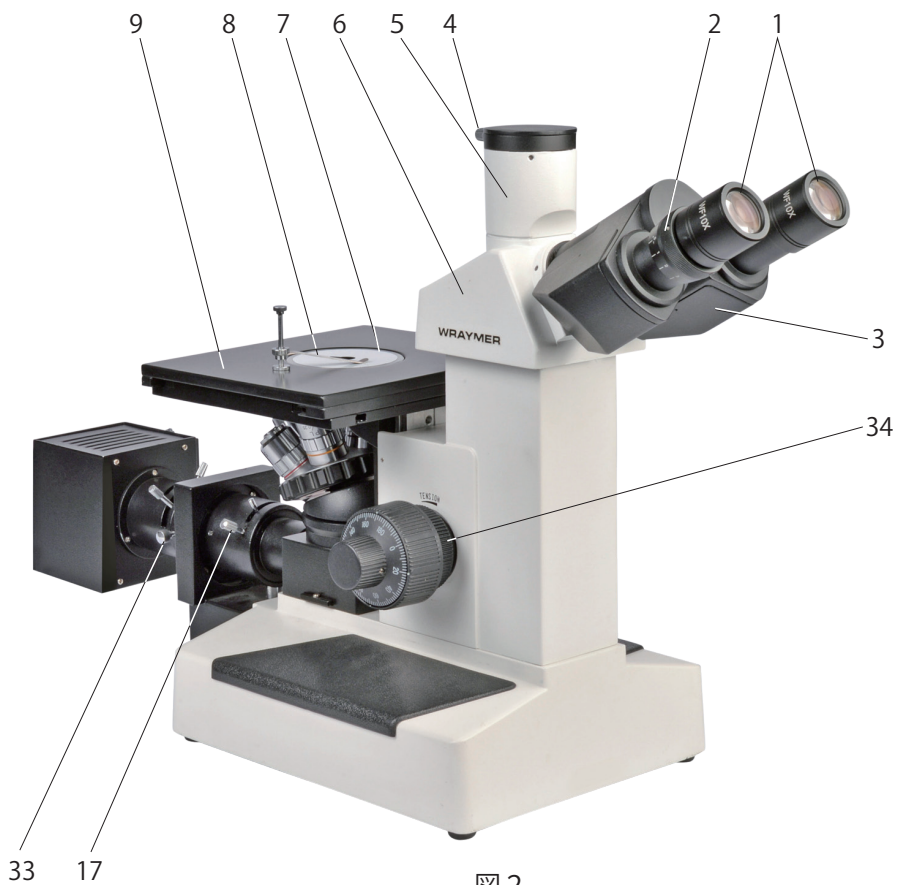


图 2

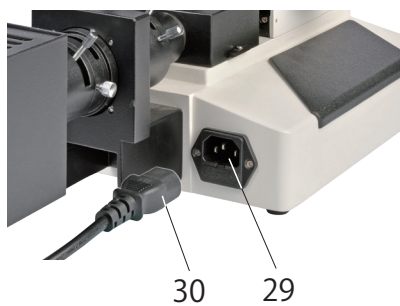
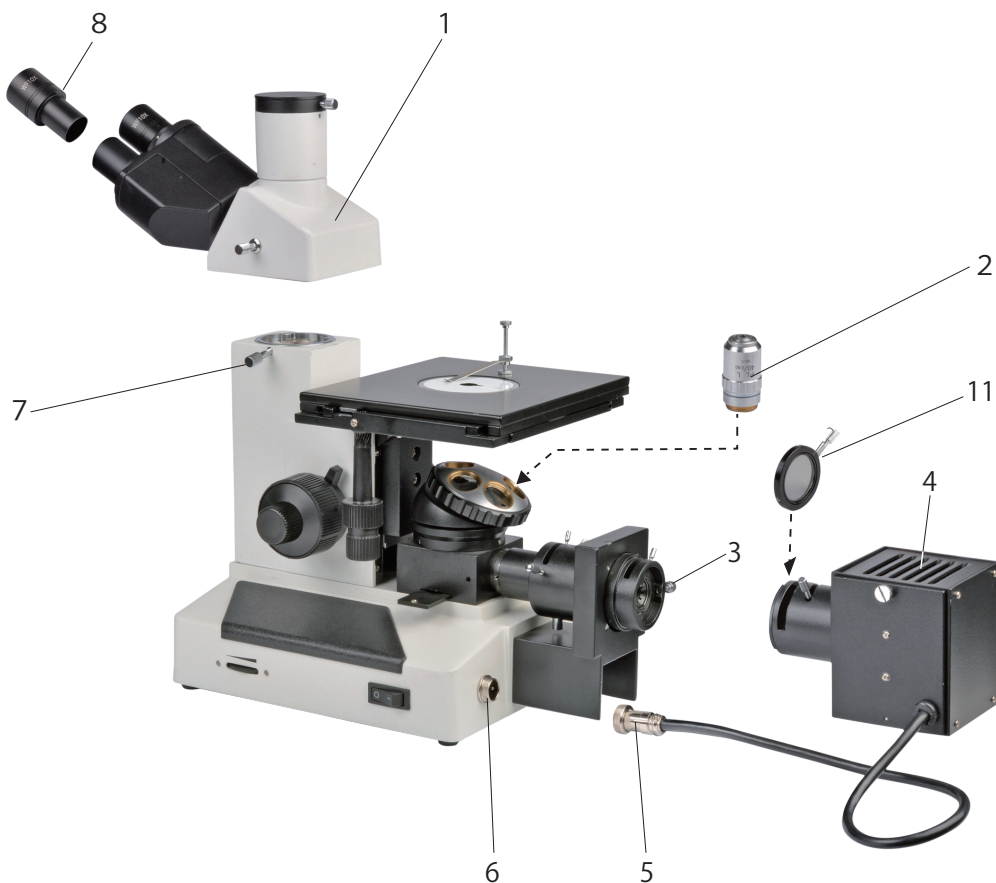


图 3



1. 三眼鏡筒
2. 対物レンズ
3. ランプハウス固定ネジ
4. ランプハウス
5. ランプハウス用プラグ
6. ランプハウス用ソケット
7. 鏡筒固定ネジ
8. 接眼レンズ
9. 電源コード差入口
10. 電源コード
11. フィルタまたはポラライザ

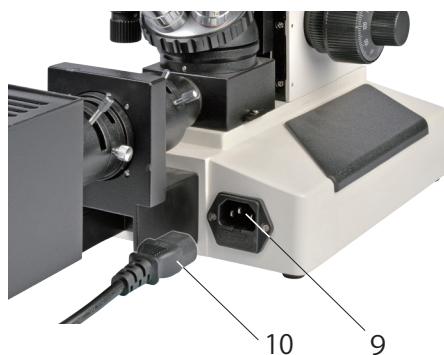


図 4

3. 顕微鏡の組み立てとセットアップ(図4)

1. 鏡柱に三眼鏡筒1をのせ、鏡筒固定ネジ7を締めて固定します。
2. 左右の鏡筒に接眼レンズ8をセットします。
3. 粗動焦点ハンドルを回してステージを一番上まで上げてから、レボルバに対物レンズ2を低倍率のものから高倍率のものへ順番にねじ込んで装着します。対物レンズの着脱時には、対物レンズがステージに衝突しないようにステージを上方に上げておきます。
4. ランプハウス4の筒の部分を、顕微鏡本体の穴に挿入し、ランプハウス固定ネジ3を締めて固定します。ランプハウス用プラグ5をランプハウス用ソケット6に接続します。電源コード10は電源コード差込口9に接続します。電源プラグをコンセントに差し込み、電源スイッチを入れて照明ライトを点灯させます(『I』側を押すと電源が入ります)。照明ライトの明るさは光量調整ダイヤルで調整します。照明ライトを点灯させて適度な明るさに調整してください。

※ハロゲン照明モデルの場合は、電源スイッチON/OFF時は照明光の明るさが最小となるように光量調整ダイヤルを調整して下さい。

5. 標本をステージ中央に置きます。小さな標本の場合はクレンメルで押さえます。
6. 光路切替つまみが観察用位置(押し込んだ位置)になっていることを確認します。(撮影用直筒側に像を送る場合は光路切替つまみを引き出します。)
7. 標本の観察は低倍率から開始します。例えば5倍や10倍の対物レンズは視野が広いので標本の観察部位を探すのが容易です。レボルバを回して対物レンズを選択した後、粗動焦点ハンドルを回してメカニカルステージ上の標本の概要が観察できるように焦点調整を行います。次に微動焦点ハンドルを回して像が鮮明に見えるようにします。他の対物レンズに替えるときは、微動焦点ハンドルを回すだけで焦点合わせができます。微動焦点ハンドルを何回転も回さないようにしましょう。微動焦点ハンドルを何度も回す前にあらかじめ粗動焦点ハンドルで焦点を大まかに合わせておきましょう。
本機は焦点ハンドルの回転の重さを調整できるトルク調整リングを備えています。ご使用時に調整が必要と感じられた場合に調整してください。

※緩くしすぎたりきつくしすぎたりしないで下さい。緩すぎるとステージが勝手に下降してしまうようになりますし、きつくすると焦点合わせが難しくなり、微動焦点ハンドルの動きにも影響が出てしまいます。

ステージ位置ストッパーを利用するとステージの上下方向の可動範囲(下限)を変更できます。標本と対物レンズがぶつからないように調整します。

8. 100×の対物レンズを使用するときは、対物レンズの先端と標本のそれぞれにイメージンオイルを滴下し、レボルバを少し左右に数回揺すってオイルの中の気泡を除きます。使用後はオイルを拭き取ってください。

※オイルを拭き取らないままでは他の対物レンズに替えないで下さい。他の対物レンズにオイルが付着してしまいます。

9. 接眼レンズを覗き、標本の像が視野の中央に来るようにメカニカルステージを調整します。

10. 三眼鏡筒の調整を下記の手順で行います(図5)

(1) 標本をステージに置き、焦点調整を行います。両手で左右の鏡筒を動かして、観察者の瞳孔間距離にあうように調整します。左右の2つの円形の視野がひとつに重なったところが、観察者の瞳孔間距離に合った位置です。調整が難しい時は、一度遠くを見て目をリラックスさせてから再度行いましょう。両眼視ができていると、接眼レンズからの光束が両方の瞳に入射します。他の人に確認してもらうとよいでしょう。

(2) 標本をステージに置き、40倍の対物レンズを光路に入れます。視度補正環1を回して目盛りを ± 0 に合わせます。まず、右側の接眼レンズを右目で覗き、粗動焦点ハンドルと微動焦点ハンドルを調整して像がはっきり見えるように調整します。次に左側の接眼レンズを左目で覗き、像がはっきり見えるように視度補正環を調整します。

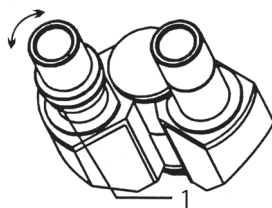


図5

11. コンデンサ絞りの調整(図6、7)

コンデンサ絞り調整つまみ(図7-3)を動かすと照明の開口数の調整ができます。接眼レンズを取り外し鏡筒内を覗きながらコンデンサ絞りを開いていきます。コンデンサ絞りの像(図6-2)の大きさが対物レンズのひとみの外周(図6-1)と重なったときにコンデンサの開口数と対物レンズの開口数が同じになります。このとき解像度が一番高くなりますが、コントラストは少々悪い状態なので、実際には対物レンズの外周の径の70～80%までコンデンサ絞りを絞り込んだほうがよく見えます。コンデンサの開口数が調整できたら接眼レンズをきっちりと装着します。調整後、光量調整ダイヤルで最適な光量にします。

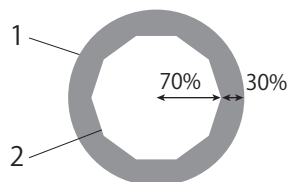


図6

12. 視野絞りの調整(図7、8)

標本の像がはっきり見えるように焦点を合わせます。視野絞り調整つまみ(図7-1)で視野絞りを最小まで絞り込みます。視野絞りの像が視野の中心からずれていれば(図8-A)、2本の視野絞り芯出しネジ(図7-2)をまわして、視野絞りの像が視野の中心に合うように調整します(図8-B)。視野絞りを徐々に開いていき、視野絞りの縁の像が視野の外周よりひとまわり大きくなるように調整します(図8-C、D)。

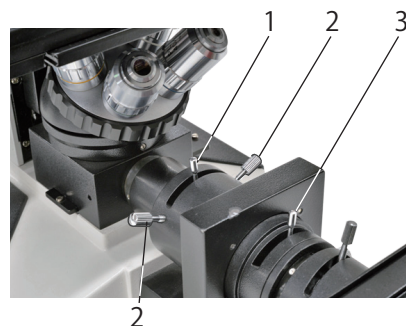


図7

※ここに記したコンデンサ絞りの調整は、照明光の明るさの調整とともに、使用する対物レンズを替える度に(20倍の対物レンズから40倍の対物レンズに切り替える場合など)行います。

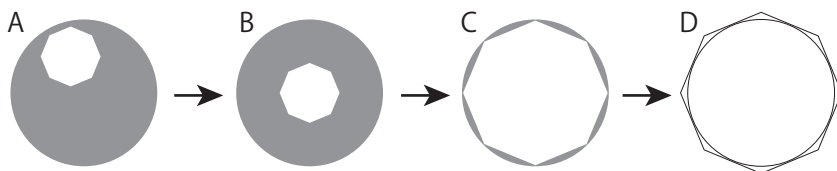


図8

1 3. 照明の調整 (照明が不均一の場合の調整)

ハロゲン照明モデルの場合

ハロゲン照明モデルではハロゲンランプの芯出しを行います。フィルタ類は全て取り除いておきます。白い薄紙をステージに置き、10倍くらいの対物レンズを光路に入れ、接眼レンズを覗きながら粗・微動焦点ハンドルを回して、白い紙に焦点を合わせます。次に対物レンズのひとつをレボルバからはずし、レボルバの対物レンズの取りついていない穴を光路に入れます。ランプ位置調整つまみ3と4(図9)を操作して、光源のフィラメントの像が白い紙に映し出されるように調整します。コンデンサ調整レバーを操作してフィラメントの像がはっきりと見えるように調整します。調整後、対物レンズをレボルバに再装着します。

LED照明モデルの場合

LED照明モデルには照明の芯出し機構はありません。最良の顕微鏡像が得られるようにコンデンサ絞りや照明光の光量の調整などを行って下さい。必要に応じてフィルタ類を使用して下さい。

1 4. 電球とヒューズの交換

感電ややけどのおそれがあるため、電球・ヒューズを交換する前には電源プラグをコンセントから抜き、電球が完全に冷えるまで待って下さい(前述『1. 安全に正しくお使いいただくために』をよくお読みください)。

電球の交換 (ハロゲン照明モデルのみ) (図9)

電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜きます。ランプハウスふたネジ2を緩めてから、ランプハウス側面のふたを外して電球を交換します。交換後、照明用電球の位置調整を行って下さい(1 3. 照明の調整を参照)。

ヒューズの交換 (図10)

電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜きます。電源コード1は電源コード差込口2からはずします。ヒューズボックス3は電源コード差込口下部にあります。小さいマイナスドライバーをヒューズボックスの上部から挿入して、テコの要領でそれを開けるとヒューズボックスが取り出せます。ヒューズボックスを取り出してヒューズを交換して下さい(ヒューズはどちら向きでもかまいません)。交換後ヒューズボックスを再装着して下さい。

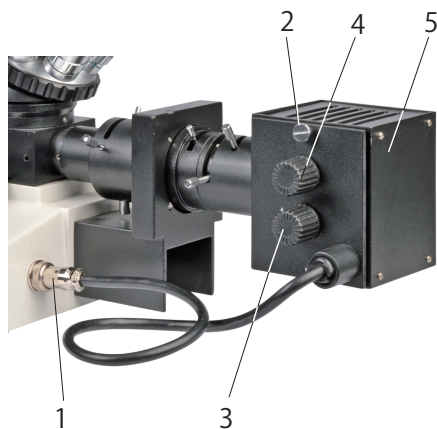


図9

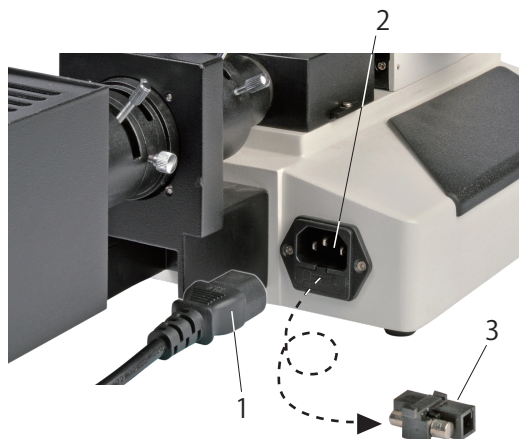
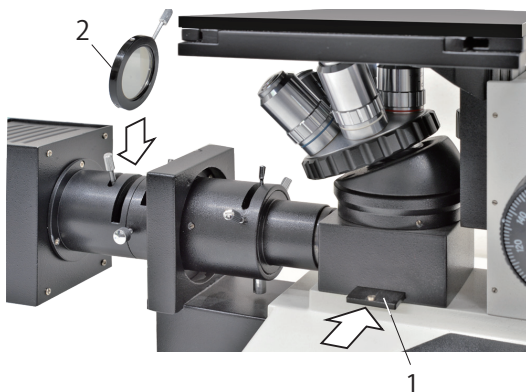


図10

1 5. 偏光観察 (図 1 1)

1. アナライザ 1 を光路に入れます。
2. ポラライザ 2 をフィルタ挿入口に挿入します。
3. 顕微鏡を覗きながらポラライザを回転させ、視野内が最も暗くなるようにします。この位置がクロス・ニコル (直交ニコル) の状態で、ポラライザとアナライザの振動方向が直交した位置です。



4. 主な仕様

図 1 1

1. 対物レンズ: プランアクロマート

光学系	倍率	開口数	作動距離(mm)
乾燥系	5×	0.12	18.3
乾燥系	10×	0.25	8.90
乾燥系	20×	0.40	8.70
乾燥系	50×	0.70	2.02

2. 接眼レンズ: ワイドフィールド

倍率	焦点距離(mm)	視野数(mm)
10×	25	18

3. 総合倍率: 10倍の接眼レンズ使用時の総合倍率は以下の通り

対物レンズ倍率	5×	10×	20×	50×
総合倍率	50×	100×	200×	500×

4. メカニカル・ステージ 大きさ: 200mm×152mm
5. メカニカル・ステージ移動距離: 縦: 15mm、横: 15mm
6. 粗微動同軸焦点
7. 微動焦点最小目盛り: 0.002mm
8. 瞳孔間距離調整範囲: 53mm～75mm
9. 重量: 8.5Kg
- 1 0. 寸法: 高さ: 357mm、前後長: 580mm、ベース: 195x237mm
- 1 1. ヒューズ:
 - LED照明モデル: 3Aヒューズ
 - ハロゲン照明モデル: 0.5A ヒューズ
- 1 2. 人工照明装置:
 - LED照明モデル: 高輝度白色LED (5,000~5,500K)、入力: AC100~240V 50/60Hz、出力: 5W、ケラー照明
 - ハロゲン照明モデル: 入力: AC100V 50 / 60Hz、出力: 6V20W、ケラー照明

5. パッキングリスト

名称	数量
顕微鏡本体	1
三眼鏡筒	1
ランプハウス	1
プランアクロマート対物レンズ 5 ×	1
10 ×	1
20 ×	1
50 ×	1
接眼レンズ	2
フィルター(青・緑・黄)	3
ポラライザ	1
円形ステージ	1
クレンメル	1
ビニール製ダストカバー	1
イマージョンオイル	1
電源コード	1
ハロゲン球(スペア、6V20W) ※1	1
0.5Aヒューズ(スペア) ※1	1
3Aヒューズ(スペア) ※2	1
JISアダプタ	1
Cマウントアダプタ(1 X)	1
取扱説明書	1
検査証明書(取扱説明書内)	1
パッキングリスト(取扱説明書内)	1
保証書(取扱説明書内)	1

※1:ハロゲン照明モデルのみ

※2:LED照明モデルのみ

6. 検査証明書

検査官	梱包者	日付

その他

◆本書の内容の一部または全部を無断転載することを固くお断りします。

◆本書の内容については、将来予告無しに変更することがあります。

◆本書の内容については万全を期して作製いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記入漏れなど、お気づきの点がありましたらご連絡ください。

6.安全に正しくお使いいただくために

開梱

◆顕微鏡は発泡スチロール製のケースに入っています。段ボール箱から発泡スチロール製のケースを取り出し、横向けにケースを置いてください。周囲の粘着テープを取り除いた後、ケースの上半分をそっと持ち上げます。両手を使って(片手は鏡柱(もしくは支柱)を、もう一方の手は顕微鏡の底部を持つ)顕微鏡をケースから取り出し、安定のよい机の上に置いてください。

顕微鏡の設置や保管・移動に関する注意

- ◆比較的湿度が少なく清潔で振動が少ない場所をお選びください。顕微鏡は湿気、ほこり、腐食性の有毒ガス、振動などをきります。
- ◆他の機械の振動が伝わる所など、振動や衝撃の多い場所に置かないでください。
- ◆水平で安定したところに設置してください。ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
- ◆高温多湿の場所では使用しないでください。レンズ類にカビがつくことがあります。調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。
- ◆ほこりっぽいところで使用しないでください。使用しないときはダストカバーを掛けてください。
- ◆暑い場所や直射日光の当たる場所では使用しないでください。
- ◆冷気が直接吹きつける場所には置かないでください。
- ◆直射日光が当たるような場所や、電灯に近すぎる場所への設置は避けてください。明るすぎる環境では顕微鏡像の質が劣ることがあります。
- ◆この製品を持ち運ぶときは、落したり、衝撃を与えたりしないようにしてください。けがや機器の破損・故障の原因となります。
- ◆機器を移動させるときは、片手で鏡柱(もしくは支柱)をしっかりと握り、もう一方の手で鏡脚を支えて運んでください。片手でぶらさげようとする行為は精密機器を狂わせる原因となります。
- ◆顕微鏡を卓上におくときは、顕微鏡に強い衝撃を与えぬよう、鏡脚の一端から静かに置いてください。
- ◆AC電源を使用する機器の場合は、移動前にスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◆ストラップが付属している顕微鏡の場合、ストラップを使用して運ぶ場合には顕微鏡をぶつけないようご注意ください。
- ◆顕微鏡の使用環境は、屋内使用で気温0℃～40℃、相対湿度85%以下です。

取扱上の注意事項

- ◆取扱説明書で指示されている以外の分解・改造・操作はしないでください。感電や危険な照明光が出る可能性があります。安全が保証できず、更に故障のおそれがあります。
- ◆精密機器につき、強い衝撃や乱暴な使用は機器に深刻な損傷を与えます。
- ◆左右の粗動焦点ハンドルを互いに異なる方向に回転させると機器の精度が悪くなる原因になることがあります。
- ◆レンズ類にはカビがつくことがあります。カビが発生しやすい場所での使用や保管は避け、長期間使用しない場合でも数ヶ月に一度は点検をしましょう。
- ◆レンズ表面を手で触ったり拭いたりしないでください。
- ◆対物レンズや接眼レンズなどを分解しないでください。
- ◆レンズや本体に衝撃を与えないでください。割れたり歪んだりして、けがや故障の原因となります。
- ◆使用後は直ちに照明のスイッチを切り、AC電源を使用する機器の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◆顕微鏡の照明光を直接見ると目を痛めるおそれがありますので十分ご注意ください。
- ◆照明光路にミラーなどを入れると反射光が目に入る場合がありますので十分ご注意ください。
- ◆ダストカバーをかけたまままでのご使用はおやめ下さい。照明ライトの熱などにより火災の原因となります。

- ◆目を傷つけないために、反射鏡の使用時には直射日光を直接反射鏡に当てないようにしてください。光が強すぎるときにはフィルターホルダーにつや消しガラスを置くなどして光量を減じてください。
- ◆やけどや火事にならないように気を付けましょう。
- ◆照明用ライトが点灯中や消灯後すぐに、電球・ヒューズやコレクタレンズに触らないでください(熱くなっています)。
- ◆電球やヒューズの交換は電球やヒューズが冷めてから行ってください。
- ◆可燃物を電球のそばに置かないでください。火災の原因になることがあります。
- ◆テレビ、ラジオなどの受信に影響が出ることもあるので、これらの電気製品から離れた場所でお使いください。
- ◆AC電源を使用する機器については、火災や感電、やけどの原因となることがありますので、以下の事項にご注意ください。
 - ◇この製品は日本国内電源仕様です。海外ではご使用になれません。必ず家庭用電源(交流100V)に接続してください。
 - ◇指定外の電源を使うと、顕微鏡の故障や、感電・火災の原因となります。
 - ◇万一漏電した場合の感電事故防止のため、アース端子のある機器についてはアース線を必ず取り付けてください。
 - ◇アース線は、電源コンセントのアース端子、銅片などを65cm以上地中に埋めたもの、設置工事(D種)が行われている接地端子などに取り付けてください。
 - ◇アース線は、ガス管、電話専用アース線、避雷針、水道管や蛇口などには取り付けしないでください。
 - ◇電源コードを無理に曲げたりねじったりしないでください。
 - ◇電源コードは熱器具に近づけないよう、十分な距離をとってください。
 - ◇電源コードの上に重いものを絶対に乗せないでください。
 - ◇電源プラグを抜くときはコードを引っ張らないで、必ず電源プラグを持って抜いてください。
 - ◇電源コードは正しく配置してください。電源コードを足などに引っかけると、顕微鏡の落下や転倒などによりけがや故障の原因となります。
 - ◇感電しないように濡れた手で電源プラグやスイッチ、電球やヒューズなどを触らないでください。
 - ◇電源プラグや電源コードが傷ついたり、内部の電線が露出したまま使わないでください。
 - ◇長時間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
 - ◇顕微鏡を布団などでおおった状態で使わないでください。熱がこもって火災の原因となることがあります。
 - ◇コンセントへの差し込みがゆるかったりぐらついている場合や、電源プラグや電源コードが熱いときは使用を中止してください。
 - ◇タコ足配線はしないでください。
 - ◇点検・清掃(お手入れ)は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、電球・ヒューズやディフューザー、コレクタレンズなど熱くなる部分が冷えてから始めてください。水滴などがついた場合は乾いた布などで拭き取ってください。
 - ◇雷が鳴り始めたら、安全のため早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ◇水や薬品などの液体をこぼさないでください。内部に金属類を差し込んだり、落としたりしないでください。
 - ◇万一内部に液体や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜き、使用を中止してください。
 - ◇浴室などの湿気の多い場所では絶対に使用しないでください。
 - ◇異常な音やにおい、煙などがした場合は、電源プラグをコンセントから抜き、煙などが出ていないのを確認してください。

◆電池を使用する機器については、電池を誤使用すると発熱・破裂・液漏れなどの恐れがありますので、以下の事項にご注意ください

- ◇電池を取り外した場合は、乳幼児の手の届かない所に保管してください。万一、お子様が電池を飲み込んだ場合は直ちに医師とご相談ください。
- ◇万一、電池から漏れた溶液が目に入った時はすぐに大量のきれいな水で洗った後、直ちに医師に相談してください。皮膚や衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。また、機器に付着した溶液は十分に拭き取ってください。
- ◇交換するときには、一度に全部、新しい同じ種類の電池と取り替えてください。古い電池と新しい電池、アルカリ電池とマンガン電池など、いろいろな種類の電池をまぜて使わないでください。
- ◇極性（プラス＋、マイナス－）を確かめて、機器の表記どおり正しくセットしてください。
- ◇長時間使用しないときは、電池をはずしてください。
- ◇電池はショートさせたり充電、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
- ◇電池は風通しのよい涼しいところに保管してください。高温多湿の場所での保管はしないでください。
- ◇ご使用後は電源を切ってください。

◆結露について

- ◇結露とは、顕微鏡を冷えた屋外などから急に暖かい屋内などに持ち込んだときなどに、顕微鏡のレンズなどに水滴がつくことです。
- ◇結露が起きたら、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、結露がなくなるまで（約 1 時間）放置してからお使いください。
- ◇結露は温度差のある場所へ移動したときや、湿気の多い場所で起こります。
 - 寒いところから暖房などがきいた部屋へ持ち込んだとき
 - 冷房のきいた部屋や車内から暑い屋外に持ち出したとき
 - 夏の夕立のあと
 - 温泉など高温多湿なところ
 - 暖房を入れ始めた部屋
 - エアコンなどの冷風が直接あたる場所

メンテナンスに関する事項

- ◆顕微鏡は光学的にも機械的にも精密な機器ですが、きちんとメンテナンスを行っていただければ末永くお使いいただけるものです。本機は標準的な機械部に高性能の光学部品を備えており、日々の授業や研究室での使用に十分耐え得る設計となっています。
- ◆顕微鏡の鏡柱や鏡脚などのレンズ以外の部分の清掃には有機溶剤を避け、汚れがひどい場合は希釈した中性洗剤を柔らかな布にわずかに含ませて拭いてください。揮発性溶剤や研磨剤入りのクリーナーを使用しないでください。
- ◆使用しないときは必ずロッカーや包装箱に入れるか、ほこり避けのダストカバーをかけて、湿気の少ない場所に保管してください（保管場所については前述の顕微鏡の設置や保管・移動に関する注意を参照してください）。長期間使用しない場合は対物レンズや接眼レンズを防湿防塵容器に入れておきましょう。対物レンズや接眼レンズをはずしたときにはレボルバなどに防塵用のキャップをはめてください（接眼レンズ用の防湿防塵容器と防塵用のキャップが付属していない機器はダストカバーのみを使用してください）。
- ◆各部を分解することは故障の原因となるので絶対に避けてください。

◆光学部品(レンズ類)の清掃

- ◇お手入れの前に手指の油分を石鹸などで洗い落としてください。清潔で柔らかい手袋があれば着用しましょう。
- ◇レンズ表面を手で触ったり拭いたりしないでください。
- ◇以下の手順で清掃します。
 1. ブロワーを用いて、ほこり、ゴミをできる限り吹き飛ばす。
 2. 柔らかい小筆などでゴミを掃き出す。
 3. 大きめのレンズやフィルターなどは、レンズクリーニング液でかるく湿らしたレンズペーパーを2つまたは4つ折りにしてレンズ類を挟み込み、レンズを回しながら中心から外側に向けて汚れを拭き取ってください。接眼レンズや対物レンズなどは、竹串などの先にレンズペーパーを細く巻きつけたものにごく少量のレンズクリーニング液をつけ、軽くゆっくりと中心から外側へ円を描くように拭き取ってください。
- ◇油浸系対物レンズを使用した後は、イメージジョンオイルが固まらない内に速やかに清掃してください。清掃はレンズペーパーでオイルを軽く拭き取った後に、竹串などの先にレンズペーパーを細く巻きつけたものにごく少量のレンズクリーニング液をつけ、軽くゆっくりと中心から外側へ円を描くように拭き取ってください。
- ◇レンズペーパーは一度使用した場所は二度と使用しないようにしてください。
- ◇レンズクリーニング液は市販のもの、もしくはエーテル：エタノール＝7：3の混合液(混合比は季節によって変わります)等を用いてください。
- ◇エーテル、アルコール、レンズクリーニング液などは引火性が強いので、取り扱いや火気、各種電気機器のメインスイッチのON - OFF などには十分注意してください。特に、エーテル、アルコールなど使用時には、部屋の換気にもご注意ください。

◆電球・ヒューズの交換

- ◇感電ややけどのおそれがあるため、電球やヒューズを交換する前には電源プラグをコンセントから抜き、電球やヒューズが完全に冷えるまで待ってください。
- ◇感電や機器の破損を防ぐために、電球やヒューズの交換前には電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◇使用できる電球やヒューズは機器により異なります。必ず取扱説明書に記載の電球やヒューズを使用してください。
- ◇電球の交換時には手袋の着用、もしくは布のようなもので電球を保護するなどして、電球のガラス表面を触らないようにしましょう。電球交換後は、清潔な布などで電球のガラス面を清掃してください。電球が汚れていると、電球が壊れやすくなったり、輝きが弱くなったりします。
- ◇電球のガラス面に指紋や汚れが付いた場合は、布などで清掃してください。電球のガラス面の汚れは、電球の破損や光量不足を引き起こすことがあります。
- ◇電源プラグをコンセントに差し込み、光量調整ダイヤル(スイッチ)を回してライトを点灯させます。ライトの明るさは光量調整ダイヤルで調整します。スイッチと光量調整ダイヤルが別々になっているタイプのものは、スイッチを入れるときには、明るさが一番暗くなる側に光量調整ダイヤルを回しておきます。こうすると電球の寿命が長くなります。

WRAYMER

株式会社レイマー

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-8-15 野村不動産大阪ビル6F

TEL : 06-6155-8230 FAX : 06-6155-8450

E-mail : arch@wraymer.com

Online Shop : <http://www.wraymer.com>